学校通信

# 心磨（しんま）

サニオン
（マスコットキャラクター）

三豊市立仁尾中学校
令和6(2024)年
12 月 2 日（月）
● 第９号 ●

## 非常変災への備え…　“命を守る行動に徹し、被災の苦労を知る”

香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）から３日遅れにはなりましたが、１１月８日（金）、学校において今年度２回目の避難訓練を実施しました。今年は元日の能登半島地震に始まり、東北地方や九州地方、さらに地震被害の傷が癒えない能登半島で水災害、土砂災害等が発生しており、今もなお、多くの被災された方々が避難所生活等を余儀なくされています。また、国の地震調査研究推進本部の長期評価によると、南海トラフ沿いの地域においては、マグニチュード８～９クラスの地震が今後３０年以内に発生する確率は７０～８０％とされており、８月には初めての特別注意報が出される等、大規模地震発生の切迫性が指摘されています。

そこで、本校では昨年からより実践的な訓練を意識しており、今回は予告なしに通行不能場所を設定し、通行できるかどうかを確認しながら安全に避難する訓練と、香川大学の防災担当の先生によるＨＵＧ（避難所運営ゲーム）の実体験を行いました。

前半の避難訓練では、大地震が発生し、その後、余震が心配される中、校内のいたるところが大きな破損をしているという設定で、授業場所から避難する訓練をしました。「通れると思っていたところが通れない」というイレギュラーと直面しながら、教師の瞬時の判断による誘導のもと、子どもたちは「**お**（押さない）・**か**（駆けない）・**し**（しゃべらない）・**も**（戻らない）」を守り、安全に避難することができました。改めて、自分の命を守り、みんなで互いの命を守るために、誰一人として油断や甘えた行動は絶対に許されないという気持ちをもって、“命を守る行動に徹すること”の重要性が確認できたことでしょう。

後半は体育館に移動し、香川大学の先生のご指導の下、全員でＨＵＧ（避難所運営ゲーム）の実体験を行いました。ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）とは、避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして静岡県が開発した図上訓練で、具体的で実践的な避難所運営を疑似体験することができます。香川県は自然災害が少なくてありがたいのですが、被災体験をすることも乏しいので、今回の体験を通して被災者側の苦労に気づいたり、感じたりすることができればと考え、指導をお願いしました。

体験後の子どもの感想を紹介します。

☆避難所運営ゲームを通して、実際の避難所には高齢の方や外国人など様々な人がいるので、できるだけ多くの人が過ごしやすいと思える環境が求められることが分かりました。私たちはこれからの地域を支えていく存在の一人として、今回学んだことを活かすことができればと感じました。今日の活動を家族にも話して、地震が起きたらどういう対応をするのか、何を備えておけばよいのかをしっかり話し合います。（３年生女子）

### 豊かな心

２年生が 11/27～29 の３日間、町内外の職場にて職場体験を行いました。２学期に入ってから少しずつ準備を重ね、今月はマナー講座、事前訪問の電話連絡、事前訪問を行い、本番を迎えました。仕事の楽しさや厳しさ、喜びや苦しみなど、普段の学校では学べない多くのことを自分自身の五感で体感してくることができました。

### 豊かな心

11/30（土）の午前中、父母ヶ浜のトイレを会場に、香川掃除に学ぶ会が行われました。これは、「父母ヶ浜のトイレの使い方が悪いので協力してもらえないか？」という地域からの相談を受けて、実現したものです。本校からはポスター制作で２名、当日のトイレ掃除に４名の子どもが参加しました。初めての公衆トイレの掃除でしたが、新しい地域連携・貢献活動ができました。